



飯山白山森林公園 ローバイ

(撮影 小林会員)

令和5年2月号 Vol. 226

(2023年)

発行：令和5年2月7日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《愛甲地区の文化財をめぐる、文化財スタンプラリー》

行事区分：行事支援（厚木市文化財保護課 冬の文化財講座）

日 時：1月15日（日）10：00～15：00

場 所：愛甲地区5か所

① 石田遺跡群②愛甲大塚古墳③熊野神社④愛甲御屋敷添遺跡⑤愛甲三郎館跡

参加者：会員7名

天気予報通り、朝から寒く、すぐにでも雨が降りそうです。スタンプラリーとしては少し心配な天気でした。このイベントについて13日に郷土資料館で文化財保護課からの事前勉強会がありました。三つある冬の文化財講座の一つで「愛甲地区の文化財をめぐるう！！」というキャッチフレーズです。例年実施している文化財めぐり（バス等で文化財をまわる）では、参加者数が限られてしまうことから不特定多数の方が参加できる様な企画にしたとのことです。

当日の参加者はのべ181人 各会場とも30人強の参加がありました。肌寒い中ではありましたが、地元密着型のイベントということで好評でした。（正月三が日の様な晴天であれば、もっと盛り上がったと思います！）
(石川 記)

会場① 石田遺跡群

伊勢原市教育委員会が作った看板を使わせていただき説明しました。南口のロータリーを作った時の発掘の写真には駅舎が写っていたこと、同じ古墳が厚木では「愛甲大塚古墳」伊勢原では「石田車塚古墳」と呼ぶことに皆さん興味を持っていました。文化財保護課の用意してくれた厚木の河川、台地を説明したパウチは大変有効でした。残念だったのはこの場所から古墳への道筋が分かりにくく、古墳には看板が無いのが残念でした。ただ、今回のコースは観光ボランティアの企画ガイドのコースとしても良いコースだと思いました。



石田遺跡群

(小林 記)

会場② 愛甲大塚古墳

4世紀のものと推定される厚木市最大の前方後円墳です。歴史好きの方や、子供の頃は古墳の上で遊んでいたという方や、小雨が降り出した中30分探し回ってきた方、親子でスタンプラリーを楽しんでいる方など、訪ねてきた皆さんに古墳を説明しました。愛甲大塚古墳は厚木市と伊勢原市の境にあり、現在は厚木市に位置する直径30数mの後円部だけが残るだけで、平成3年と平成5年の調査の結果前方部の周溝が発見されて、全体の長さは80～90mに及び前方後円墳と判明した県下でも最大級の大きさの古墳です。前方部は平安時代にすでに削平されて住居に使用されたようです。後円部の上部にはのちの時代の石祠が祀られていて、南側は数メートルの崖になっているが、以前はより平坦でその場の土砂は新玉川を造る際に使用された事も今回初めて知る事でした。正午過ぎには小雨になり、住宅地の中にある1500年前の古墳では、鳥の鳴き声だけが響いていました。

(森島誠 記)

会場③ 熊野神社

愛甲村の鎮守。鳥居、社殿、神楽殿、御神木(樹齢300年)全て立派です。何と言っても県下最古の石灯籠は康暦二年(南北朝時代1380年)の作(市指定有形文化財)で皆さん驚いていました。社領4石も受領しています。拝殿は早朝から扉が開かれて中を拝観できました。参拝者に優しい心遣いです。スタンプラリーではなく、普段通りに毎朝お参りする人、家族(初詣?)、若者(合格祈願?)参拝者が思ったより多かったです。



熊野神社

一日中神社に初めて居て、眺め、改めて地元の神社は愛され、老若男女日本人のDNAには神様を敬う気持ちがあることを発見しました。

スタンプラリーも寒い中ですが、ファミリーに好評、また、地元スタートの方が多かったです。海老名から来た方、ネットで知った、近くだから参加したと様々ではありました。ここ地元の神社について詳しく知らなかったのが良い機会でしたと言われた方もいました。昼前には雨が本降りとなり寒さが一層こたえましたが、なんと、境内の氏子の方からコーヒーの差し入れがあり、また、スタンプラリー参加の親子からホカロンを頂きました。地元の方の優しい人情に触れた一日でもありました。

(石川 記)

会場④ 愛甲御屋敷添遺跡

愛甲御屋敷添遺跡は、埋め戻されて現地には掲示板を含め何もなく、事前の文字資料もなかったのが、どうなることかと心配しましたが、市で用意していただいた発掘時の現地の状況や土器の写真、遺跡北部の掘立柱や竪穴式住居跡の図面などで説明しました。

「ここにこんな遺跡があるとは知らなかった。」「昔から人が住みやすいところだったのですね。」など概ね好評で、写真や図でイメージが膨らんだようです。発掘時に見学に来たという方もおられ、懐かしそうに資料を見ていらっしゃいました。

午後、薩摩藩士の子孫の愛甲さんという方が見えられたので、小野神社にご先祖が江戸時代に参詣された時の木札が残っていますよと伝え、持参していた厚木中世史話のコピー

「寛延2年3月23日当社参詣松平薩摩守家中愛甲源左衛門小野季平」の記事をお見せすると「木札が残っているんですね。」と喜んでいらっしやいました。 (清田邦 記)

会場⑤ 愛甲三郎館跡

日曜日の午後、生憎の雨のなか中年の男性が傘を差しながら神明社、甲（かぶと）稲荷社、焰魔堂にお供物を備えて神妙な祈りに時間をかけてお参りし、午後2時頃仕事帰りの職人の方が道具類を乗せた車で乗り入れ同じくお供物を供えて熱心にお祈りをして帰られました。私は事前に型どおりのお参りしかしていなかったので、ここの場所は地元の人にとっては大げさに言えば尊崇され心のよりどころとなっている神聖なところと改めて認識させられました。

また年配の自治会関係者は説明を聞いた後「地元の英雄ゆかりの地として看板も掲げてもっと PR すべき所ではないか」と感想を漏らしました。そして近くに住まいする会員から濡れたテーブルを拭くタオル、またカボスの差し入れをいただき降り出した雨の日の気遣いに感謝、感謝。 (清田康 記)



愛甲三郎館跡

《大山地域通訳案内士養成講座》

行事区分：外部研修会（主催：伊勢原市）

日 時：1月28日（土） 9:00~10:10

場 所：伊勢原市役所

伊勢原市は、大山地域に対し神奈川県第4の国際観光地に指定されたことと 日本遺産登録を機に外国人観光客の増加見込みに対応するため、地域通訳案内士制度を導入し、外国人旅行者に対して質の高い通訳ガイドができる人材を確保する目的で養成講座が行われました。

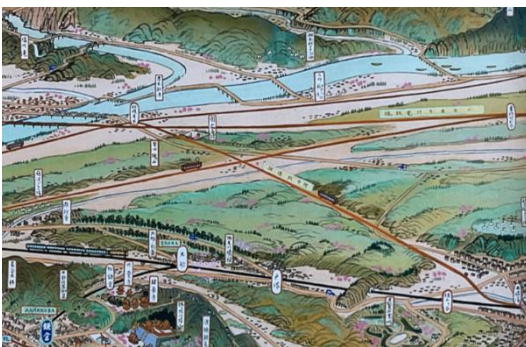
大山地域には、伊勢原市全域と厚木市七沢地区および、秦野市ヤビツ・蓑毛峠地区が対象になっており、厚木市として七沢地区紹介の講座が設けられました。受講生は、伊勢原市が応募資格を TOEIC や英検の基準を設けて募集し、3か月間の期間で54時間の講習が計画されました。

今回の講座には17人が受講しており、七沢地区の紹介の講演ではパワーポイントを使用し映像と説明を1時間にわたって行なわれ、受講者は熱心に受講されており、活発な質問や提言もあり無事終了しました。

受講された皆さんは正式に通訳案内士として認定された後、大勢の外国の方を案内して七沢を訪れて欲しいと思いながら、受け入れ側にも外国の方向けの観光資源をそろえることが必要と感じました。 (森島誠 記)



昭和7（1932）年、神奈川県観光協会連合会は神奈川県観光振興のため吉田初三郎（※）に神奈川県鳥瞰図作成を依頼しました。陸軍陸地測量部から提供された測量結果を基に鳥の視線で作成されたこの鳥瞰図は縦約 80 cm、横約 420 cmと大変大きく、関東大震災から復興が進む当時の様子が伝わってくるものとなっています。鳥瞰図を拡大したもので当時の様子を見てみました。

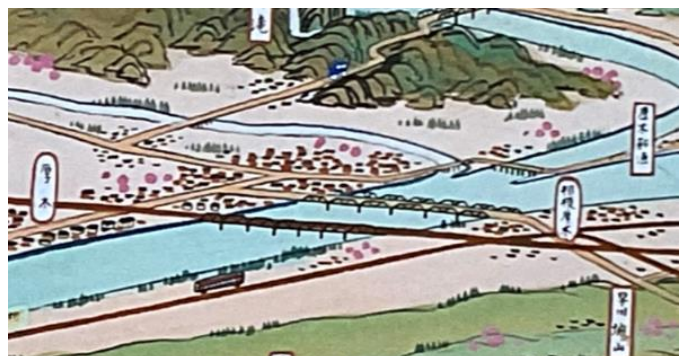


県央では神中鉄道（現相模鉄道）と相模鉄道（現 JR 相模線）が描かれています。神中鉄道は昭和6（1931）年には相模厚木から西横浜までであった路線を平沼橋まで延長、さらに昭和 8 年に横浜へと延長するとともに厚木町と相模厚木を結ぶ無料の連絡用バス路線も開設しており、砂利運搬から旅客中心の営業へと方向転換を図り始めていました。一方、八王子と茅ヶ崎を結ぶ相模鉄道は砂利の運搬に加えて県央、県北からの旅客も多く、中には湘南で海水浴を楽しもうというお客などもあったようです。



鳥瞰図には相模厚木と厚木町の間を結ぶ五連アーチの相模橋が描かれています。相模橋は幾度か改修を重ねたのち相模大橋の完成により廃止され地図にも記載のないもぐり橋（沈下橋）となります。手すりもなく車が通ると歩行者も歩けないほど狭い橋を車で通るときナビゲーターには川の中を走っているように表示されていました。

（※）吉田初三郎（1884-1955）は大正から昭和にかけて活躍した絵師で「大正の広重」と呼ばれています。吉田の鳥瞰図は該当地を踏査、取材し風土や歴史を知って作成されているのが特徴で、他の画家とは大きく異なるところでした。弟子たちとともに作成した鳥瞰図は生涯に 3,000 点以上とされています。



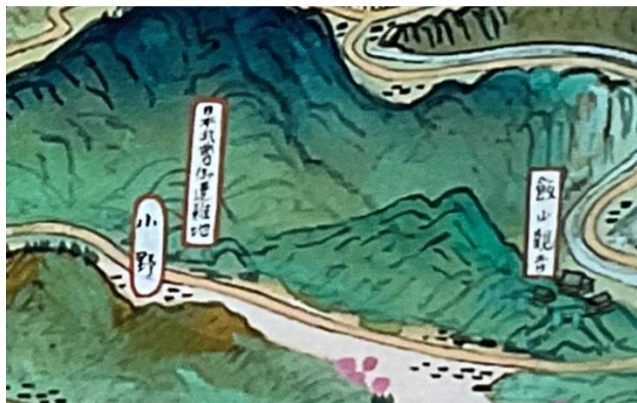
相模橋は、改修されるたびにアーチの数が変化しています。掲載した写真はアーチが三連であった当時のものですが、相模橋のあった場所に造られたあゆみ橋が三連アーチにデザインされたのは、この当時の姿にちなんだものであると伺ったことがあります。厚木の西側には伊勢原から「小野」を經由して「飯山観音」に向かう県道 63 号線が描かれており途中で別れる県道 64 号線は湯煙の立ち上る「七沢温泉」や「別所温泉」へと向かっています。以前、小林多喜二を調べたときに昭和初期までの湯治客は伊勢原から来るのが一般的であったと伺いました。七沢温泉自動車商会が厚木と七沢を結ぶバス路線の営業を開始したのは昭和 6（1931）年 11 月といえますから鳥瞰図が描かれたときはまだ開業から間もなかったようです。



七沢温泉は江戸中期に蛇が傷ついた体を癒すために入浴していたことから発見されたと伝えられていますが、明治期には「万病に効く霊水」として広く知られていたようです。また、江戸末期に開かれた別所温泉も明治には 3 軒の温泉宿があったそうです。

鳥瞰図の「飯山観音」付近に湯煙は描かれていません。地元では飯山は古くから狸が村人に教えた温泉と言いつたえられていたようですが、全国でも屈指のアルカリ温泉と判明するのは昭和 54（1979）年に行われた神奈川県温泉地学研究所の調査まで待たなければ

いけませんでした。飯山観音に向かう道の途中に「小野」の地名があり、その脇には「日本武尊御遭地」の記載が見られます。このことから昭和初期には古事記に記載されている日本武尊が相武国造に火攻めにあった地が厚木の小野であるという伝承がかなり広く流布していたことがわかります。



いけませんでした。

飯山観音に向かう道の途中に「小野」の地名があり、その脇には「日本武尊御遭地」の記載が見られます。このことから昭和初期には古事記に記載されている日本武尊が相武国造に火攻めにあった地が厚木の小野であるという伝承がかなり広く流布していたことがわかります。

古代の相模国はその西側が師長（しなが）

国、東側が相武（さがむ）国と分かれており、小野はその境界付近の地でしたので相武国に入ろうとした日本武尊を相武国造が襲撃した地として納得できたのでしょう。古代道は厚木付近まで現在の 246 号線に沿っていたと考えられており、日本武尊にまつわる伝承は小野だけではなく足柄峠（南足柄市）、蓑毛峠（秦野市）、腰掛け石（海老名市）にも残されています。63 号線沿いの日産テクニカルセンター脇には「津古久峠」、伊勢原市総合体育館裏の展望台近くには「津古久峠茶屋跡」といった道標があります。戦国から江戸時代には津古久峠を越える小田原道と呼ばれた峠道がありましたが鳥瞰図には記載がなく昭和初期には廃れてしまっていたことが判ります。現代の地図でも伊勢原市総合体育館の展望台から日産テクニカルセンターの脇を通り岡津古久城跡や子安神社の北側を小野に向かう道がありますので、小田原道の名残なのかもしれません。鳥瞰図はそんな思いを巡らせてくれる面白い資料です。

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
1月 14日	アミューあつぎ	定例会	会員 23名
1月 15日	愛甲地区	愛甲地区の文化財をめぐる、 文化財スタンプラリー	会員 7名
1月 28日	伊勢原市役所	大山地域通訳案内士養成講座	会員 1名
2月 2日	愛甲地区	企画ガイド 下見 「愛甲三郎季隆の旧跡を訪ねて」	会員 7名
2月 2日	相川公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

巻頭の写真は「ロウバイ」の花です。17世紀はじめごろ日本へ渡来したようです。12月～2月に良い香りのする花を咲かせます。ロウバイの名は漢名の蠟梅の読みで、一説では、陰暦の12月にあたる臘月（ろうげつ）にウメの香りの花をつけるためといわれています。

大山地域通訳案内士養成講座がありました。海外からの観光客や外国人居住者が増えてきている昨今において、外国語による観光ガイドのニーズは高まっていると思います。外国人のお客様にも大山や厚木近郊をガイドする事で、さらなる観光振興が期待出来ます。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘